

協会賞

30年目突入! 史上初の10時間SP 『MUSIC STATION ウルトラFES』

(株) テレビ朝日

(株) テレビ朝日クリエイト

井磧伸介 横井勝 小林尚弘 鹿内遥 加藤由紀子 小谷知輝



受賞理由

長時間の生放送という条件下、番組30周年の集大成であるイベントを複数のデザイナーによる総力でお祭りに盛り上げた、民放テレビ局らしい美術のパワーとクオリティに対して。

受賞者(井磧さん)のコメント

10時間のナマ放送という基本軸ができたとき、美術としてはまず「人振り」を考えましたね。もちろんひとりじゃできないわけで、チームの編成を考えました。ひとりひとりのやりがいという面もありますし、自分もそうですけど、集中してできる分量というのを大事にしてチーム編成を考えました。仕事は人ありきかな、と思いながら、ですね。



新人賞

(株)日本テレビアート 高橋 太一



受賞理由

優れた色彩計画性と密度のある空間構成力を持ち合わせ、多岐にわたる番組を美術で支える中心的存在として今後の活躍が期待される。

受賞者のコメント

『掟上今日子の備忘録』のメインセットとなったサロンには、設定がいろいろあります。喫茶店でもあり、上の階には人が住んでいて、サロンでは探偵の仲間もしている、洋服も売っている…最初、台本を読んだ時に、ちょっとびっくりして面食らいましたが、その時感じた変わった空間だなという印象を、ストレートにそのままセットにしました。



特別賞

NHK放送文化研究所 廣谷 鏡子

受賞理由

2010年に発足した“テレビ美術研究会”の中心的存在として多岐に亘った調査、研究にご尽力され、「放送のオーラル・ヒストリー『テレビ美術』の成立と変容」シリーズをNHK放送文化研究所の研究誌に発表するなど、“テレビ美術”の社会的認知に貢献した功績に対して。

受賞者のコメント

テレビの美術の研究には、聞き書きを基にする、オーラルヒストリーという手法を用いています。同じ聞き書きでも、声なき声の人の話から歴史を見直すという手法なんです。テレビ美術というのも「声なき声」なんで、放送といういろいろな仕事がある中で、あまり話そうとしない人たち、職人的な方々から、根堀葉堀聞いていくことで、テレビ美術がわかってくるんじゃないかと。

